

## 中野拓哉作 「おれのアメリカ旅行記」

<前編>

中山健

ねえ姉貴、英語しゃべれるの？

姉ルミ

わたしだって全然よ。でも通訳の牧師さんが一緒だし、今回一緒に行くほかの人がきつと話せるよ。日本語話せるファミリーだっているし。それにいざというときは、身振り手振りで何とかなるって。わたしよりあんたのほうが現役なんだから。

健

そんなこと言ったって…。姉貴だって現役だろ。今回の話だって、姉貴が「教会の英会話教室のホームステイがあって、一人じゃ心細い」って言うから…。

(効果音)

(飛行機の離陸音)

健ナレーション

2週間後。英語力に一抹の不安はあったが、結局おれたち姉弟は、とても楽しみにしていたアメリカ＝ロサンゼルス<sup>きょうだい</sup>のホームステイの旅に参加していた。アメリカに来た今となっては、そんな心配をしても仕方なかったし、あんなに不安がってたことも忘れ、アメリカの大きさと、値段の安さに驚き、感動していた。

おれの名前は中山健。青春高校2年。英語が大の苦手なおれだったけど、アメリカは大好きになりかけてる。今度の旅は、姉貴のルミに誘われて、「来年は受験だから今のうちに」という親の一言で、参加する気になったのだ。姉貴は大学3年生。去年クリスチャンになったらしく、近所の教会の英会話教室に行っているということもあって、親友の浜田順子とともに、その英会話教室主催のホームステイに参加したのだ。教会に興味はなかったけど、英会話のホームステイということだったし、参加者のほとんどはクリスチャンではないということで、安心して参加したのだ。こんなことで安心するのもヘンだけど…。

稲葉牧師

初めまして。わたしは今回のホームステイの責任者で、一応通訳も兼ねることになった牧師の稲葉です。よろしくお願いします。

(全員)

(口々に)よろしくお願いします。

稲葉

皆さん、飛行機はどうでしたか？ (間)10時間以上もかかったから、大分疲れているようですね。参加者はわたしも含めて14人です。一人一人別々のホストファミリーのところで滞在させていただくわけですが、このグループで行動することも多いので仲良くやりましょう。このホームステイの目的は英会話ですが、アメリカの教会の人や、ホストファミリーと触れ合い、交わりを深めて、日本へよい思い出を持ち帰ってください。それから、約20日間のプログラムに、ほぼ毎日英会話教室がありますが、それとともに、チャペルタイムといって、聖書のお話があります。もちろんわたしが日本語で話しますので、寝ないようにお願いします。

(全員) (笑い)

稲葉 それから何か問題が生じたら、何でもわたしのところまで言ってください。アメリカは治安の面でも日本とは大違いなので、注意してください。それではこれから皆さんのホストファミリーと、アメリカのディレクターさんを紹介します。

健 (小声で) ねえねえ姉貴、英会話とチャペルが毎日あるんじゃ、あんまり遊べないじゃん。

リカ 当たり前でしょ。プログラムをちゃんと見ておかなかったの？

健 チェー！

浜田順子 でもディズニーランドとか、ユニバーサルスタジオとか、丸一日遊びの日も結構あるから…。

ナレーション …ト助け舟を出したのが浜田順子さん。

健 何かすっげードキドキしてきちゃった。どの人がおれのファミリーかなあ。

リカ わたしはあの女の人。送られてきた手紙に写真入ってたから。

健 おれんところは小さな子供がいるって言ってたから、あの大きな人のところかな。三浦さんは？

三浦信二 あ、信二でいいよ。アメリカ式で行こう。

ナレーション 彼は三浦信二さん。飛行機の中で隣の席だったということもあって、始めに仲良くなった。彼も大学生で、クリスチャンだそう。同じクリスチャンでも、イマイチ頼りない姉貴とは全然違う。しっかりしていてとても楽しい人だ。

信二 僕のところは、僕と同じ年の息子さんと、2つ下の娘さんの4人家族。今日はお母さんだけ来てみたいだな。健君は結構心配してるみたいだけど、大丈夫だよ。みんなクリスチャンホームだから、君に優しくしてくれるよ。

稲葉 では、ここからはそれぞれ別れてホストファミリーと一緒にです。またあさって、この部屋でお会いしましょう。

ナレーション おれのホストファミリーは、ホームステイ慣れしているらしく、「イエス」か「ノー」しか言えないおれに、とても分かりやすい英語で応対してくれた。フリーな時間もかなりいろいろと予定してくれているらしく、言っていることは半分も分からなかったけど、いつもニコニコしながら、ゆっくりと繰り返して、分かるまで待っててくれた。

(ナレーションの背後で)

Elaine Hi, Ken. Nice to see you. You must be tired, aren't you?

健 イ、イエス… ノー、アイアム ノット ソー タイアド。

Robert Oh, really? Good! This is my wife, Elaine and I'm Robert. Welcome to our home and please think us as your real mom and dad while you're with us, OK?

健 オ、オッケーオッケー！

ナレーション 次の日は、時差や疲れで一日中寝ていた。そして3日目――。

信二 どうだった、昨日は？ 僕は朝4時ごろ起きちゃって、家族とか教会に手紙書いたり、日記つけたり、それからホストファミリーの人に近所、と言っても車でだけど、いろいろ案内してもらったり、友達に紹介してもらったりで、なーんかすっごい忙しかった。健のほうは？

健 おれは疲れてほとんど一日中寝てましたよ。あ、姉貴遅い。寝坊でもしたの？

リカ おはよう…ございます、信二さん。寝坊なんかしてないわよ、健。

順子 おはようございます。信二さんと健君…でしたよね？

信二 おはよう順子さん！ あれ？ 今日ルミさんのホストファミリーの人は？

順子 ルミンとこの家族はお父さんとお母さんだけなんだけど、共働きで、平日はこの教会まで送ってこられないんだって。それでわたしのホストとこに連絡があって、今日は一緒に来たってわけ。

信二 そうなんだ。さ、今日から英会話クラスが始まる。行こう。

リカ う、うん。

健 姉貴元気ないね。どうかしたの？

リカ ううん、別に。

稲葉 おはようございます。皆さん、アメリカのクリスチャンホームはどうでした？ 今日から英会話のクラスが始まりますが、今日はクラス分けだけです。そのあとチャペルがあるので、終わったらこの教室に集まってください。アメリカに来て3日になりましたが、家ではどうですか？ 何か困ったこととかはありませんか？ 浜田さんは昨日はどっか行きましたか？

順子 ええ、昨日は海のほうへ行って、クイーン何とか号に乗ったり、あと買い物にも連れてってもらいました。

稲葉 そうですか。言葉の問題はありませんでしたか？ 三浦君は？

信二 全くないというわけではないと思いますが、僕の場合なんか、何度も言い直したり、最後には「例えばああいうの、こういうの」って、身振り手振りで結構分かってもらえましたよ。向こうの言ってることも、何度も聞き返したりだけど、大きな意味で捕らえると結構分かりやすいです。

稲葉 ほかの人はどうですか？ 家族とはうまくいってますか？ 中山さんはどうですか？

リカ え、ええ。まあ…。

ナレーション その日の姉貴は、初めから全くとっていいほど元気がなかった。あれほど楽しみにしていたホームステイだったのに。でも、自分もまだ慣れていなかったの、姉貴のことも、それ以上は気にならなかった。

稲葉 それでは聖書を出して、マタイの福音書の5章を開いてください。

ナレーション こうして始まったアメリカのホームステイは、始めの内こそ慣れないことばかり

でホームシックにかかる者もいたが、毎日の忙しいが楽しいプログラムの中で、日本が次第に帰りたくない国に変わっていった。

アメリカに来てから丁度 1 週間目、みんなが待ちに待ったディズニーランドの日が来た。

(音楽)

It's a Small World

順子

東京ディズニーランドと違って、何時間待ちっていうのがないから楽よね。

信二

僕、実はディズニーランドって初めてなんだ。

健

おれもなんすよ。それに英語も全然だから…。一緒にいましょうね、信二さん。置いていかないでくださいね、順子さん。

順子

まっかせといて。マップを見たら日本のより小さいし、大体同じような感じだから。でもこのスペースマウンテンは、アメリカでも人気ね。

信二

どうしたの、ルミさん？ 何か疲れてるみたいだけど。

ルミ

いいえ別に。ただあんまりホストの家族とうまくいってなくて。

信二

じゃ稲葉先生に相談してみたら？

ルミ

う、うん。

ナレーション

そう力なく返事をした姉貴も、みんなと一緒に楽しく遊んでいるうちに、すこし元気になってきた。

信二

そろそろ時間だね。パレードも見たいし。集合場所に戻ろう。

健

そうですね。

順子

じゃわたし、ルミちゃん呼んでくるね。お土産買うって言ってたから。

信二

じゃ先に行ってるよ。

順子

うん。すぐ行く。

ナレーション

そう言った順子さんと姉貴は、時間を 10 分過ぎても来なかった。

稲葉

遅いですね。迷ったのだろうか。

信二

家、そんなはずは…。でも 2 人いるから…。あ！ あれは順子さんじゃ？

順子

(息せき切って)

信二

遅いんじゃない？ ルミさんは？

順子

(あえぎながら)それが…。ルミちゃんがいらないんです。

健

え、姉貴がいらないって？

順子

その辺捜したんだけど…。

稲葉

君たちはここにいなさい。一緒に来ているリンダさんとエリックさんに捜してもらうから。

(音楽)

(重苦しい感じ)

ナレーション

みんなの顔から、ほほえみが消えていた。

健モノローグ

姉貴のやつ、一体どうしたんだろう。

ナレーション

その時おれは、「ホストとうまくいっていない」と言った時の思い詰めたような姉

貴の顔を、ふっと思い出した。心の中に、黒い雲がじわじわと広がっていった――。

<後編>

順子 (あえぎながら) ルミちゃんがないんです。捜したんですけど…。

健 え、姉貴がないって？

ナレーション おれ、中山健。青春高校2年。今日会の英会話教室に行っている姉貴のルミの誘いで、アメリカ、ロサンゼルスホームステイに参加した。みんながやっと慣れてきたホームステイ1週目、それは楽しみにしていたディズニーランドの日だった。おれは教会とかには興味なかったけど、このホームステイは、友達もできた地、とても楽しんでた。しかし、こっちに来てあんまり元気がなかった姉貴が、ディズニーランドの帰りの時間になって、いなくなってしまったのだ。

順子 遅いわねえ。もう1時間以上も過ぎてるのに。

稲葉 心配しなくてもいいと思いますよ。今、リンダさんとエリックさんが捜してくれていますから。

健 でもアメリカ来て何か元気なかったみたいだし、今朝だって…。何もなきやいいんだけど。

順子 ねえ、あれルミちゃんじゃない？ そうよ。ルミちゃーん！ こー！

健 姉貴、遅いよ。みんなこうして…。

ルミ (泣く) すみませんでした。

信二 稲葉先生、僕、リンダとエリックを呼んでできます。

稲葉 ああ。(ため息) よかった。内心、心配してたんですよ、ルミさん。どうしたんですか？

ルミ いえ、本当にごめんなさい。実はお財布をどこかに置き忘れてしまって…。

稲葉 ここじゃもう見つかりませんよ。だれかが持って行ってしまったでしょう。いくらくらいい入っていたんですか？

リカ 10ドルが2、3枚と小銭が少し。

稲葉 それで済んだらまあよしとしなくちゃ。

信二 みんなそろいました。さあバスへ。帰りましょう、先生。

ナレーション 姉貴はそれからしばらく一言も口を利かなかった。そして大分落ち着いてきたのは、バスの中でほかのみんなが疲れてほとんどが眠ったところだった。

リカ 先生、本当にすみませんでした。みんなにも…。

稲葉 いいえ、それよ大丈夫ですか？ お金がもし足りないようなら貸しますよ。それにかかなり疲れているようだし。

リカ お金はいいんです。わたしが悪いんですから。それより財布の中に家のかぎが入っていたんです。

信二 え、家のかぎって、日本の家のかぎ？

リカ いえ、こちらの家のかぎです。うちのファミリーは、共働きで昼間はいないし、帰りが遅いことがあるからって合いかぎを渡しておいてくれたんです。

信二 合いかぎなら大丈夫だよ。それに拾われたって、どこの家か分かんないんだから。

健 そうだよ。

リカ でも…。いくら合いかぎでも…。きっと許してもらえない。

稲葉 許してもらえない？ どうして？ わたしからちゃんと説明してあげるから。

リカ いえ、いいんです。(間)先生、ホストファミリー替えてほしいんですけど。

健 替えるって？

リカ 先生、あのファミリーでは、わたし…もうダメです。その上かぎまでなくしてしまっ  
て。

稲葉 どういうことなんですか？ 詳しく説明してもらえますか？

ナレーション しばらく黙っていた姉貴は、やがてゆっくりと話し出した。

リカ 向こうの意思がわたしに全く通じないと思っているんです。つまりわたしが彼らの英語が分からないため、コミュニケーションが全く取れないって。始めのうちはいろいろ気を遣ってくれたり、我慢してくれていたみたいなんです。わたしも何とか分かろうとしたし、話そうとしたんです。そして2、3日したところから、向こうが何を言おうとしているかも、少しずつ分かり始めてきました。でもわたしが思い切って何か言おうとすると、もう別の話になっていて…。「分かってない」と思うらしくて、わたしが言うのをまっててくれないんです。ここ2、3日は、もう口をほとんどきいてくれません。たまに声をかけられたらと思うと、「こんな英語も分からない、話せないじゃな」とか、「こんなんでも本当に大学生なの？」とか言われて…。

信二 え、そんなことまで？

リカ 今朝なんて、わたしが早かったからかもしれないけど、朝食も作ってくれないし、わたしが家を出るところになって起きてきて、それでも「グッモーニン」って言ったのに、何も言ってくれなかったんです。でも先生とかほかの人に言ったらやっぱり悪いと思って、ずっと我慢してきたんです。わたしが我慢すればって…。でももうダメ、我慢できそうにありません。耐えられないんです。何かもう許せないって感じです。

順子 えー、そうだったの？ ルミ、かわいそう。

ルミ また今日帰っても、かぎのことで何て言われるか。もちろんかぎのことはわたしが悪いの。だからきっと許してくれないと思うし、早く出て行ってほしいって思ってるんじゃないかな。わたしも去年クリスチャンになって、アメリカにも期待して来たのに…。今は、「クリスチャンで、こんなもんなんだな」って思い始めていま

す。人間なんてしょせん…。

稲葉 そうだったんですか。少しも気がつかなかった。じゃわたしが明日行って話してあげましょう。どうしてもダメなようなら、また別の道を考えますから。

ナレーション その日はとても帰りが遅くなったが、おれの家族はみんな心配顔で待っててくれた。おれはできる限りの英語で、姉きのことを話した。

(バックで)

健 My sister...ロ、ロスト her purse.

ロバート Oh, it's too bad. How much money in it?

健 エートエート、オンリー2... 3... a fewドルズ...dollars. But she also lost her house key.

イレイン Oh, how did she enter to her house?

ナレーション みんな心から同情してくれて、姉貴とそしておれのためにお祈りをしてくれた。結局、姉貴と先生と姉貴のホストファミリーで話し合い、双方納得の行く話し合いができたようだったが、それでもどうしても気まずい雰囲気が続くということで、3日目に、姉貴はホストファミリーを替えることになった。それ以来姉貴モ少しずつ元気になっていったが、それでも、分かってもらえなかった悔しさの反面、自分のしたことに対する一抹の後ろめたさで、時折ふっと落ち込んでいるようだった。

3週間があつと言う間に過ぎて、いよいよ明日は帰国という、出発前日のことだった。

(効果音) (ナレーションのバックで、ガヤ)

信二 もう帰んのか。ほんと早かったな。

健 本と、まだまだこっちにいたいなあ。

順子 なーんか明日のお別れのこと考えると、もう涙が出そうになっちゃう。ほんとによくしてくれたから。

信二 ルミさんはどうだった、新しいホストファミリーに替わって？

ルミ ええ、とってもよくしてくれたわ。でも今になってみると、何か前のホストファミリーにとっても悪かったなーって。それにクリスチャン同士なのに、これでよかったのか、ほかに方法はなかったのかなって。

信二 うん、残念ではあったよね。でも文化と言葉がまるで違うもの同士が理解し合うのがいかに難しいか、体験で分かったことは、決して無駄じゃないと思うよ。これからのルミさんの課題だな。一つ言えるのは、あのままだったら君は本当に参ってた。そしたらきっと今のように明るい元気なルミさんはなかったってことだな。

健 ねえ、チャペルの始まる時間だよ。あっちの教室へ行こう。

稲葉 皆さん、これが最後のチャペルの時間になりました。今日は、第1回にやりまし

たマタイ5章のところから、その7節をお話したいと思います。「哀れみ深い者は幸いです。その人は哀れみを受けるからです。同じマタイの18章には、ほかの人に対して7の70倍許しなさいというイエス様の言葉が書いてあります。これは、人が自分に犯した罪を何回許せばいいのかと聞いた弟子に対して言った言葉ですが、今日のみ言葉はこの問いに対する答えでもあると思う。哀れみ深い者、心から友を許す者が、神の哀れみを受けるのです。でもその哀れみの心は、どうしたら持てるのでしょうか。イエス様の許し、十字架の許しです。

健モノローグ

十字架の、許しか…。

ナレーション

もう疲れて半分眠りながら聞いていた稲葉先生のお話の中で、そのところだけが頭の中で繰り返されていた。

健モノローグ

クリスチャンになるって、イエス様に許されるってことなのか。そしたら人を許せるのか？

ナレーション

その時おれは、ホームステイの間の数々のドジや失敗を、いつも笑って許してくれたホストの両親のことを思った。なぜか涙が出て止まらなかった。そばの姉貴は、うつむいてじっと唇をかみ締めていた。

いよいよ出発の日が来た。ほとんどすべての人が、目に涙を浮かべ、抱き合っ  
てホストと別れを惜しんでいた。おれも思わず泣いていた。そしてお世話になっ  
た家族の人に対して、感謝の気持ちをうまく英語で言えず、ただ「サンキュー」  
を繰り返していた。

(バックで)

ロバート

**Ken, Elaine and I'll be praying for you always.**

健

プ、プレイ？… あ、お祈り？ オ、オウ、Thank you, thank you!

エレイン

**Please come to America again, and remember, Ken, you are our family in Japan.**

健

(涙声) Thank you, thank you...

ナレーション

いよいよ空港までのバスにみんなが乗り込んだ、その時だった。

順子

ほら、あの人、ルミちゃんの。

信二

ほんとだ。前のホストファミリーのご夫婦だ。

健

姉貴！ ほら、あの人！

ナレーション

姉貴の目から、見る見るうちに涙があふれ出した。

稲葉

信二君、悪いんだけど、先に行って旅行会社の人に、わたしとルミさんは少し遅れると言っておいてください。

ナレーション

牧師先生はそう言うと、姉貴の手を取ってバスを降りた。走り出したバスの後ろで、姉貴と前のホストのご夫婦がしっかりと抱き合っているのが見えた。

健モノローグ

イエス様の許し… 十字架の許しか…。

ナレーション

おれは心の中でそうつぶやいていた。

<完>